

平成 25 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	萌芽型
事業名称	グローバル女性リーダー育成 高度リベラルアーツプログラム
取組代表者名 担当者名	<p>本事業代表者： 小玉亮子（教育企画室長）</p> <p>本事業担当者： 加藤美砂子（広報推進室長） 北林春美（グローバル協力センター准教授） 小谷眞男（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 申 琪榮（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 長谷川直子（大学院人間文化創成科学研究科准教授） マルセロ デ アウカンタラ（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 最上善広（理学部長）</p>

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

1、事業構想

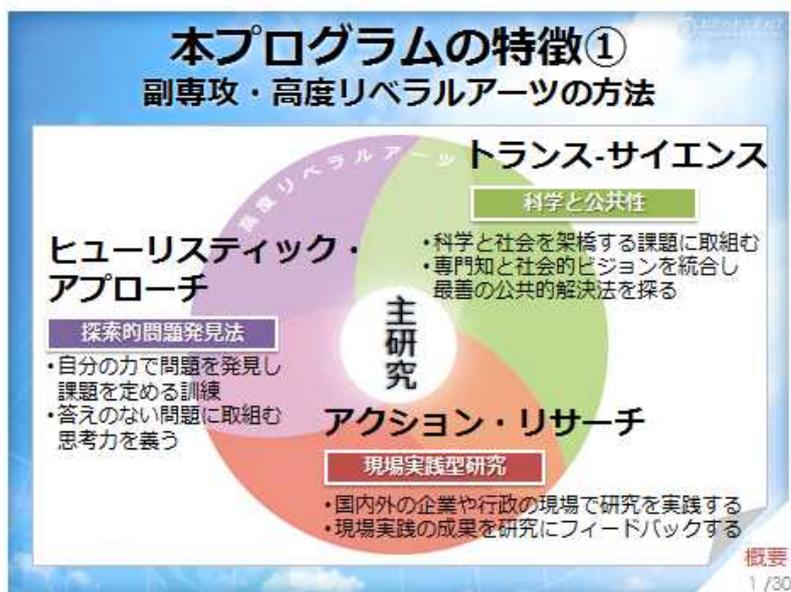
現在、博士課程修了者にたいしては、従来の研究職のみならず多方面での活躍が求められているが、特に、国際的にも日本における女性リーダーが活躍できない状況が問題視される中であって、IMF のワーキングペーパー「女性は日本を救えるか」、に見られるように、あらゆる分野における女性のリーダーの活躍が期待されている。

現代においてリーダーに求められるものは、高い専門性と広い視野から俯瞰できる幅広い教養である。お茶の水女子大学のリーダーシップ教育において、学部段階ではすでに先行してリベラルアーツ教育改革が推進されているが、これをより高度化したプログラムが大学院教育においても推進される必要がある。そこで、本事業は、博士課程在学者を対象とした高度リベラルアーツプログラムとして、試行的に二つの事業を開始することとした。なお、本事業は、パイロット的プログラムとして、平成 25 年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」申請の準備と位置づけて構想された。

2、事業内容

大学院における女性リーダーの育成のための高度リベラルアーツには、単に従来の枠組みを踏襲するのではなく、従来の枠組みを超える議論が求められる。従来の認識を超える方法として、三つの方法を構想した。第一に、理系・文系といった領域に留まることのない、研究分野を越境した議論が求められなければならない。これをトランス・サイエンスの議論として、位置づけた。第二に、国内しか視野にはいらないような発想ではなく、国境を越境しつつ、グローバルな行動力が求められる。これをアクション・リサーチとよぶ。第三に、通常議論されている問題設定はもとより、未

知の問題それ自体を問う志向性、思考力が求められる。これを、ヒューリスティック・アプローチ



と呼ぶこととした。本構想は、この三つを高度リベラルアーツの方法をよぶが、今回の事業においては、試行的に、第一のトランス・サイエンスと第二のアクション・リサーチについて試行的に試みるものである。

学問領域の境界線を超える議論をすすめること。また、国境を越える発想・行動力を養うことを目指すものである。

### (1) トランス・サイエンス

従来のお茶の水女子大学において学部教育において文理融合の理念をもとにリベラルアーツが構想されてきたが、高度リベラルアーツにおいては、単なる文化と理科を融合させるという発想では必ずしも十分でないと考えられる。そこで、25年度は、高度リベラルアーツの柱としてトランス・サイエンスをテーマとした大学院リベラルアーツの授業を試行することとした。合わせて、受講者のみならずキャンパス内にトランス・サイエンスについての理解を深めるために、公開イベントを開催した。公開イベントとしては、映画上映会「モンサントの不自然なたべもの」、特別講義「遺伝子組み替え作物の原理を理解する」、公開講演会「イタリアの震災リスク裁判と科学者の社会的責任」、シンポジウム「宇宙のトランス・サイエンス」がある。

### (2) 海外実践的活動支援（アクション・リサーチ）

これまでの本学の大学院生の海外派遣に関しては、留学や調査研究を目的としたものが主であり、リーダー育成に不可欠な企業やNPO等各種団体におけるインターンシップ活動を対象としたものは実施されていない。大学院生を対象とした類似のプロジェクトとしては、平成23年度より博士課程のポストドクター・インターンシップ事業が行われているが、この事業では、国内におけるインターンシップが中心である。従って、本事業は、海外における企業や各種団体でおこなわれるインターンシップ事業に院生を派遣することを目的とする。平成25年度では試行的に院生の派遣は、16万円を限度として若干名募集し、3名の海外派遣をおこなった。

なお、上記詳細については、別紙報告書を参照されたい。

## 2. 今後、申請を予定している競争的資金

本経費は、外部の競争的資金等を獲得するための準備経費として助成しました。今後、競争的資金の申請を予定している場合は、資金名を記入してください。

本事業は平成25年度「博士課程教育リーディングプログラム」申請の準備と位置づけて構想されたものであるが、特に、海外実践的活動支援の部分は、平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援」事業にとって、不可欠な事業であると考えている。